

1 【様式】

令和3年度 学校マネジメントシート

学校名 (四日市工業高等学校 全日制)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		「技術と精神（こころ）」をあわせ持った職業人を育成し、地域にとって必要で愛着をもってもらえる学校
(2)	育みたい 児童生徒像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 主体的に学び、専門的な知識と技術・技能の修得に努める生徒 ○ スポーツ・文化活動等を通じて、個性を伸ばし、心豊かな人間性を備えた生徒 ○ 規範意識を持ち社会に貢献できる生徒
	ありたい 教職員像	<ul style="list-style-type: none"> ○ 目指す学校像の実現に向け、保護者・企業・地域等からの要望を受け止め、互いに情報共有を図り、すべての教職員が一体となった教育活動を進めるとともに、意欲を持って教育活動のできる教職員集団 ○ 仕事にやりがいを感じ、自らも成長しようとする教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p><生徒> 生徒の約8割が就職、約2割が進学を望んでいる。進路実現のために資格取得、部活動等における飛躍などを中心とした学校生活の充実を期待している。</p> <p><保護者> 子どもたちの進路実現と部活動等の集団生活をとおした人間的成長を求めている。</p> <p><企業等> 元気で明るくコミュニケーションが図れ、社会に貢献できる生徒が育成されることを期待している。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待		連携する相手からの要望・期待	連携する相手への要望・期待
		<p><家庭・保護者> 連携・協力のために、学校の取組等を今以上に情報発信してほしい。</p> <p><中学校・小学校等> オープンスクール等により、学校生活の様子、部活動の様子、入学者選抜の情報等を知らせてほしい。</p> <p><企業・地域等> 心身ともに健康な人材が輩出されることを期待している。 地域活性化につながる行事等へ参画してほしい。</p>	<p><家庭・保護者> 本校教育方針を理解と協力、特に社会的役割と責任の自覚を促す指導への協力をしてほしい。</p> <p><中学校・小学校等> 継続的・効果的な指導のために個々の生徒の情報共有をしたい。</p> <p><企業等・地域等> インターンシップ等の連携と協力、専門科目等における技術指導への支援をしてほしい。</p>
(3) 前年度の学校関係者評価等		<ul style="list-style-type: none"> ○卒業までの3年間を見通したキャリア教育の体制が確立している。コロナ禍で求人状況が厳しくなる中、専攻科や本科では進路実現に素晴らしい成果を上げている。 ○人権教育については、充実している。コロナ禍における取組等を充実させる必要がある。 ○地元小学校生へのものづくり体験教室は、小学生も期待している。感染防止対策等で大変ではあるが、このような取り組みを中止とすることなく、実施できるよう工夫しながら進めている。 ○四日市工業の生徒は校外でも挨拶をしてくれて気持ちが良い。職業高校の強みである。 	
(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒たちは将来のスペシャリストを目指し、専門教科等の学習に努力している。さらに、部活動等でも努力し、優秀な成績を収めている。生徒の自己実現のために、教職員が、学習指導と生活指導の工夫と改善等に努力し、生徒一人ひとりに応じた進路指導を充実することが必要である。 ○企業が必要とする知識・技術力が多様であり、工業教育の到達目標を定めにくい。 	

学校 運営等	<p>○職員数、職員室の数が多い学校であるが、分掌、工業各科、学年間の連携をスムーズに行ない、教職員間での情報共有が図れるよう取り組み、組織として学校全体での取組が円滑にできるようになりつつある。</p> <p>○放課後の指導等により、資格取得、ものづくり活動、部活動等において大きな成果を収めている。</p> <p>○各種委員会等の会議が多くなり、教員が生徒と関わる時間を確保が必要である。</p>
-----------	--

3 中長期的な重点目標

教育活動	<p>○「技術と精神（こころ）」をあわせ持った職業人を育成するため、資格取得や就業体験等の一層の充実を図るとともに職業人として必要な力を身に付けさせるための活動を体系的に実践する。</p> <p>○価値観の異なる多様な人々と協働していく力の育成や、海外での仕事に対する意欲や関心を高めるために、職業人による技術指導、外国での勤務経験がある職業人の講話などの取組を行う。また、海外インターンシップを行う。</p> <p>○Society 5.0 の超スマート社会に対応できる資質・能力を育むとともに、生徒一人ひとりの個に応じた学びを行うためにICTを活用した教育環境の整備を推進する。</p>
学校運営等	<p>○地域との連携を密にし、学校との信頼関係を構築する。地域の行事への参加、地域の小中学校への出前授業、学校説明会等を行う。</p> <p>○人権教育基本方針をもとに、人権感覚あふれる学校づくりを推進する。</p> <p>○部活動における適切な練習時間を定めるとともに、生徒・部活動顧問ともに休養する日を設定（1日/週）する。（目標100%）</p> <p>○精選と効率化により会議の時間を1時間以内とする。また、ワーク・ライフ・バランスの推進を図り、「働きやすい職場」をつくるために業務内容を精査し時間外労働の縮減に取り組む。</p> <p>○定時退校日を設けることにより職員が計画的に校務を行うよう意識を高める。</p>

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導の充実と資格取得	<p>1 授業改善に取り組み、学習意欲の喚起や学力の向上を目指します。</p> <p>【成果指標】</p> <p>(1) 時間割変更や、特別時間割編成などを積極的に行い、自習課題時間を前年度より減らします。</p> <p>2 ICT教育の推進に取り組み、生徒が主体的・対話的で深い学びができるようにします。また、生徒1人1台の学習者端末整備（BYOD）に向け指導計画の策定に取り組みます。</p> <p>【成果指標】</p> <p>1) 生徒が端末を活用した授業 200 回/年</p> <p>2) Arduino によるプログラミング学習と制御実習の実施</p> <p>3) 3次元 CAD、VR 機器、VR データの取扱等などに接する学習の充実</p> <p>3 コロナ禍において様々な活動が制限される中、必要な対処をしつつ生徒のものづくり活動の継続を図ります。</p> <p>・新規に活動できる場所・ツール等の開拓をします。</p> <p>・ものづくりの生産活動を可能な限り継続させます。</p>	<p>1(1)</p> <p>自習課題時間が前年度3月末で177時間であったのに対し、本年度は72時間で105時間の減ができた。</p> <p>2 各工業科等の実習や座学においてICT教育に取り組むことができた。</p> <p>BYOD パソコンを活用した指導計画の策定は現在取組中である。</p> <p>1) 端末貸出予約305件</p> <p>2) 令和4年度の実習での授業展開を可能にするため現在構築中。</p> <p>3) 令和4年度の実習での授業展開を可能にするため現在構築中。</p> <p>3 感染拡大防止の対策をしながらものづくりコンテストへの参加やインターンシップ等を行った。</p>	

	<p>4 工業に関する学習の成果として以下の資格取得を目指します。</p> <p>【成果指標】【全科】 ジュニアマイスター（全工協）表彰80人以上</p> <p>【物質工学科】 1) 危険物乙種第4類（1年次から3年次まで）合格100% 2) 危険物乙種全類合格（甲種含む）50% 3) 二級ボイラー技士取得者数 30%</p> <p>【機械科】 1) 技能検定（旋盤、機械組立仕上げ、機械プラント製図）それぞれの合格100% 2) 1年時で危険物乙種第4類 合格 90%</p> <p>【電子機械科】 1) 第二種電気工事士試験 合格率100% 2) 技能検定（マシニングセンタ）、（シーケンス制御）合格100% 3) 危険物乙種全類合格（甲種含む）合格100% 4) これまでに受検していない新たな資格取得の受検</p> <p>【電気科】 1) 第二種電気工事士試験（3年次までに）全員合格 2) 第一種電気工事士試験 10名以上合格 3) 第三種電気主任技術者 1名以上</p> <p>【電子工学科】 1) 資格・検定取得者数のべ130人 2) 技能検定（電子機器組立）合格率100%</p> <p>【建築科】 1) 2級建築施工管理技士（学科試験）の合格率で全国平均以上 2) 建築CAD検定3級の合格率で全国平均以上 3) 技能検定3級（建築大工）全員合格 4) 3・4級建設業経理事務士の全員合格 5) 各種全国高校建築設計競技での上位入賞</p> <p>【自動車科】 1) 3級自動車整備士国家試験の合格率100%</p> <p>5 チャレンジ精神を養うため競技会等へ参加します。 ものづくりコンテスト、各種競技会などのものづくり活動で10以上の入賞、3つ以上の優勝</p>	<p>4 ジュニアマイスター50人</p> <p>【物質工学科】 1) 64% 2) 41% 2名が甲種合格 3) 21%</p> <p>【機械科】 1) 旋盤 75%、機械組み立て仕上げ 100% 機械プラント製図 100% 2) 80%</p> <p>【電子機械科】 1) 100% 2) マシニングセンタ 100% シーケンサ 未受験（未実施） 3) 86%</p> <p>【電気科】 1) 100% 2) 7名合格 3) 0人合格</p> <p>【電子工学科】 1) のべ166人 2) 技能検定（電子機器組立）合格率:83%</p> <p>【建築科】 1) 前期(6月)試験 全国平均37.9%に対して本校は27.8%。 後期(11月)試験結果は 全国平均37.9%に対して本校は27.8%。 2) コロナ禍における実習時間減少のため、受験を次年度4月に変更 4) 4級46名全員合格 3級合格率90% 5) 10作品が全国最優秀賞を含む上位入賞</p> <p>【自動車科】 3級自動車整備士の合格率 38/40=95%の合格率</p> <p>5 建築科 全国最優秀賞を含む入賞13 ものづくりコンテスト自動車整備部門において、東海大会・全国大会で優勝 国土交通大臣賞 若年者ものづくり競技大会自動車整備職種にて金賞厚生労働大臣賞 全日本高等学校ゼロハンカー大会において、準優勝</p>	
--	--	--	--

<p>キャリア教育の充実</p>	<p>1 外部講師を招聘した講義や技術指導を行います。また、集団討論・集団面接の指導を充実させます。さらに卒業生との懇談会、工場見学を可能な限り実施します。</p> <p>2 地域の産業界と連携した工場見学、就業体験（インターンシップ等）を実施し、勤労観、職業観を身につけるよう取り組みます。</p> <p>3 実習の点呼・連絡時に生徒の1分間スピーチを実施し、コミュニケーション能力や心豊かな人間性と個々の伸長を図ります。また、オープンスクールや高校生活入門講座等において生徒が培った技術や精神、身に付いた知識やコミュニケーション能力を主体的に発揮し、成果を実感できるようにします。</p> <p>4 応募前企業見学やオンライン説明会の活用により企業理解を深め、適切な進路選択と企業理解の機会拡大に努めることにより就職希望者の就職内定率及び進学希望者の進学100%とします。</p> <p>5 生徒理解のために個人面談を年間1回以上実施します。</p> <p>6 保護者の学校理解を深めるため、学年通信を年4回以上発行します。</p> <p>7 生涯にわたって学ぶ資質を養うために、図書館の利用促進を図ります。</p> <p>【成果指標】</p> <p>1) 年間貸出冊数 5000 冊以上</p> <p>2) 図書館便りを1回/月発行</p>	<p>1 4/21 進路が'ダンス3年 6/9 卒業生との懇談会 9/1 集団面接・集団討論 12/16 進路が'ダンス2年 2/17 進路が'ダンス1年 3年生のみ工場見学実施</p> <p>2 インターンシップ参加企業</p> <p>3 各学年実習の点呼時に1分間スピーチを実施 オープンスクールは中止となった。高校生活入門講座や日永小学校物作り教室でのアンケート結果では9割の生徒が成果を実感できたと回答</p> <p>4 12社38名がオンライン説明会活用 就職内定率100%</p> <p>5 保護者会については必要に応じて1回以上実施出来た。</p> <p>6 全学年で9回発行</p> <p>7 <3/11現在> 生徒貸出冊数 2,383冊 図書館便り 12回発行</p>	
<p>人権教育</p>	<p>【人権】</p> <p>様々な人権問題に関心を持ち、人権意識を高め、主体的に行動できる人材の育成を図ります。自分の大切さとともに他者の大切さを認め、具体的な態度や行動がとれるよう、以下の取り組みを行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権問題についてグローバルな視点を持ち、自ら考え、行動できるように講演会（LGBT）を実施 ・人権LHRを1学期と2学期に全学年で実施（障がい者問題と仲間作り、平和学習、就職に関する差別） ・1年生を対象としたSNS講演会の実施 ・学校生活アンケートの実施（学期毎に実施） ・人権だよりの発行（学期毎に実施） 	<p>人権LHR ・1学期(7月9日実施) ・2学期(12月23日実施) 人権講演会 ・SNS(4月16日オンラインで実施) ・LGBT(12月23日実施)</p> <p>学校生活アンケートを各学期1回実施</p> <p>人権だよりを各学期1回発行</p>	
<p>生徒指導</p>	<p>【生徒指導】</p> <p>1 基本的な生活習慣の確立について取り組みます。また、社会で必要な礼儀に加えコミュニケーション力を育みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規則正しい生活習慣の確立、遅刻のない学校生活を送る事ができるよう取り組みます。(指標：遅刻件数年間200件以下) ・来客者や教員に対するあいさつ、礼儀の作法を身につけさせ、社会で生きていくために必要な力を養います。 <p>2 交通事故防止に取り組みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自転車通学の安全とマナー向上、交通ルールの順守を 	<p>1 遅刻件数は199件(2月末現在)であった。(昨年度は未実施) 特別指導に関して、昨年度は1件1名であったが今年度は3件3名(2月末現在)であった。</p> <p>2 交通事故件数は昨年度30件、今年度は19件と減少した。</p>	

	図るため、登校指導・安全講話を実施します。	
保健管理	【保健部】 1 生徒一人ひとりが感染防止対策を自ら実施できるよう、健康教育に取り組みます。	現状を理解し自分が出来る感染防止・感染拡大防止について便りや集会、HRにおいて指導を行った。また、必要な器具等の充実を図った。

改善課題

【教務】自習課題が大幅に減少することが出来た。コロナ禍によるオンライン出張等によるものが主な原因ではあるが、ポストコロナでも増加しないよう引き続き取り組みたい

【進路】グーグル・クラスルームを活用してオンライン面接の指導が出来た。また、進学希望生徒は個々に提出種類の内容や締め切り日が異なるが、グーグル・クラスルームを使って生徒への注意喚起や密回避のスケジュール調整などの管理を徹底することが出来た。今後も ICT を活用して生徒との連絡調整を遅延無く行う取り組みを推進する必要がある。

【電子機械科】目標を達成できなかった資格については、来年度強化し目標値に近づけたい。コロナウイルス感染症により実施されなかった資格試験があった。

【建築科】2級建築施工管理技士の合格率が前期(6月)試験では目標値に届かなかったため、前期の反省を踏まえ、後期試験では講習会を実施した(2月の合格発表待ち)

コロナ禍における臨時休業等により資格試験の指導が進まなかったが、オンライン授業やネット動画などのデジタル教材を活用した取り組みを進めていく必要がある。

(2) 学校運営等

学校運営等に関する項目は、教職員や施設等を対象としたものとするのが望ましい。

(例)「組織運営」「研修(資質向上の取組)」「情報提供」「保護者・地域住民等との連携」など
また、評価項目・指標等を検討する際の視点は、学校の実態に応じて設定する。

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績を指標にします。

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等を指標にします。

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重要取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
組織運営	1 (1) 防災・減災の観点から、防災意識を高めるとともに、防災教育・訓練の充実を図ります。 ・巨大地震が発生し津波避難を想定した防災訓練を実施します。 (2) 地域・保護者との連携強化のため以下の取組を行います。 ・PTA 役員会を5回以上実施。 ・各研修会への参加及び、PTA 会報の発行等による還元。 ・学校関係者評価の開催及び関係者からの意見を職員で共有 (3) 人権教育を計画的、継続的に推進します。 ・人権教育推進委員会の開催(年間11回)	(1)12月22日に「防災デー」として防災訓練を実施。学年別に観点を換え、防災意識を高めた。学校として備蓄品も整備することができた。 (2)PTA 役員会を5回実施。各研修会については感染防止の観点から実施を見送った。 (3)人権教育推進委員会を7回実施(12月末)	

	<p>2 (1) 感染症対策に留意した学校生活・学校行事が行われるよう、校内の連携をすすめます。</p> <p>(2) 生徒保健委員会による保健だよりを年8回以上発行し、生徒自身が健康について考える機会とします。また、保健便り「すこやか四工」を毎月発行し、健康への関心を高めます。</p> <p>(3) 感染防止対策に留意した「性に関する講話」「メンタルヘルスに関する講話」を計画・実施します。</p> <p>(4) 学期毎に安全点検を実施します。また、安全点検時に限らず、危険箇所について報告を受けた場合は、生徒・職員に周知徹底をし、事故防止に努めます。</p> <p>(5) 特別支援教育推進委員会を年5回開催し職員が一致して支援を行えるように情報共有を図ります。また、スクールカウンセラーを活用し発達に不安がある生徒・保護者等の継続的支援にあたります。</p> <p>3</p> <p>(1) 不祥事防止に取り組みます。</p> <p>学校信頼向上委員会をとおして、教員が自らコンプライアンス意識を高めるとともに、教員が互いに不祥事を防止するための取り組みを行います。</p> <p>(2) 各種協会・組織と積極的に連携を図り、学校教育活動のアピールに努めます(報道提供1回/月)。</p> <p>(3) 「働きやすい職場づくり」を目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動休養日の見える化に取り組みます。 ・定時退校日を設置し、定時退校日は職員どおしで帰宅を促すような組織づくりを推進します。(1日/月) ・1か月の平均時間外労働時間を20時間以内、年間休暇取得日数の対前年比増を目指します。 ・時間外労働時間が月45時間、年間360時間を超えないように取り組みます。 	<p>2 (1) 地域の感染状況等を把握しながら、その時期に行うことができる最大限の行事実施に向け、関係学年・分掌等と相談しながら計画段階から参画した。</p> <p>(2) 「すこやか四工」「生徒保健委員会便り(生徒が作成)」のどちらか及び両方を毎月発行した。(100%)</p> <p>(3) オンライン形式で実施(100%)</p> <p>(4) 学期1回の点検を実施(100%)</p> <p>(5) 支援が必要な生徒・保護者の面談を実施し必要に応じSC・SSWへつなげることができた。特別支援教育推進委員会は教科担当者会議も含め予定通り5回開催。(100%)</p> <p>3 (1) 分掌単位でのコンプライアンス研修を月1回の割合で実施できた。</p> <p>(2) 資料提供10回(自動車、ピンクシャツ、建築日永、企業展、うちわ、バギー、金融、スマホスタンド、バギー建築競技、女性交流会)</p> <p>(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月から12月までの平均時間外労働時間11時間 1月から12月までの休暇取得日数2日増 ・同期間における時間外労働時間が45時間超のべ50人
--	---	--

改善課題

12月22日に「防災デー」として防災訓練を実施。学年別に観点を換え、発達段階における取り組みとし、学年毎に防災意識を高めることができた。また、学校として非常災害時の備蓄品の整備なども行うことができた。

人権教育について、1学期は学位年別にテーマを設定して実施した。2学期は全学年共通でLGBTについて事前学習と講演会を実施することが出来た。

5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<p>自習課題の削減が大幅に出来たのは素晴らしい。</p> <p>交通事故が1件でも減るよう引き続き指導をお願いしたい。</p> <p>学習活動の成果としてものづくりコンテストで結果が出せている。</p> <p>コロナ禍で制限があるが、地域活動の中で互いにコミュニケーションがとれるようになることを期待する。</p>
----------------------------	--

	小学生対象のものづくり教室をきっかけに地域の小学生達がものづくりに興味や関心を持ってくれることを期待する。
--	---

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<p>地域の教育力を活用した地域との協働による高校教育改革を進め、生徒の学習意欲の向上や高いレベルの知識や技術の習得を目指します。</p> <p>基礎学力向上のために授業改善を継続して行うとともに、指導と評価の一体化を踏まえたカリキュラムマネジメントの推進を一層行う必要があります。</p> <p>コロナ禍等による状況変化にも柔軟に対応し、教育活動を続けるため、学習のねらいや目的を明確に生徒に提示するとともに、BYODパソコンの活用などにより、学習意欲向上のための動機付けを行います。</p>
学校運営についての改善策	<p>職員のコンプライアンスを高める取組を進め、信頼される学校作りに努めます。</p> <p>教職員の健康管理及び過重労働削減に努め、会議時間や議事の内容を見直すとともに、長時間労働が及ぼす健康障害等を職員に周知し、「働きやすい職場づくり」を目指します。そのために引き続き以下の取り組みを継続します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動休養日の見える化に取り組みます。 ・職員の休暇取得の対前年比増を目指します。 ・月に一日の定時退校日は職員どおしで帰宅を促すよう取り組みます